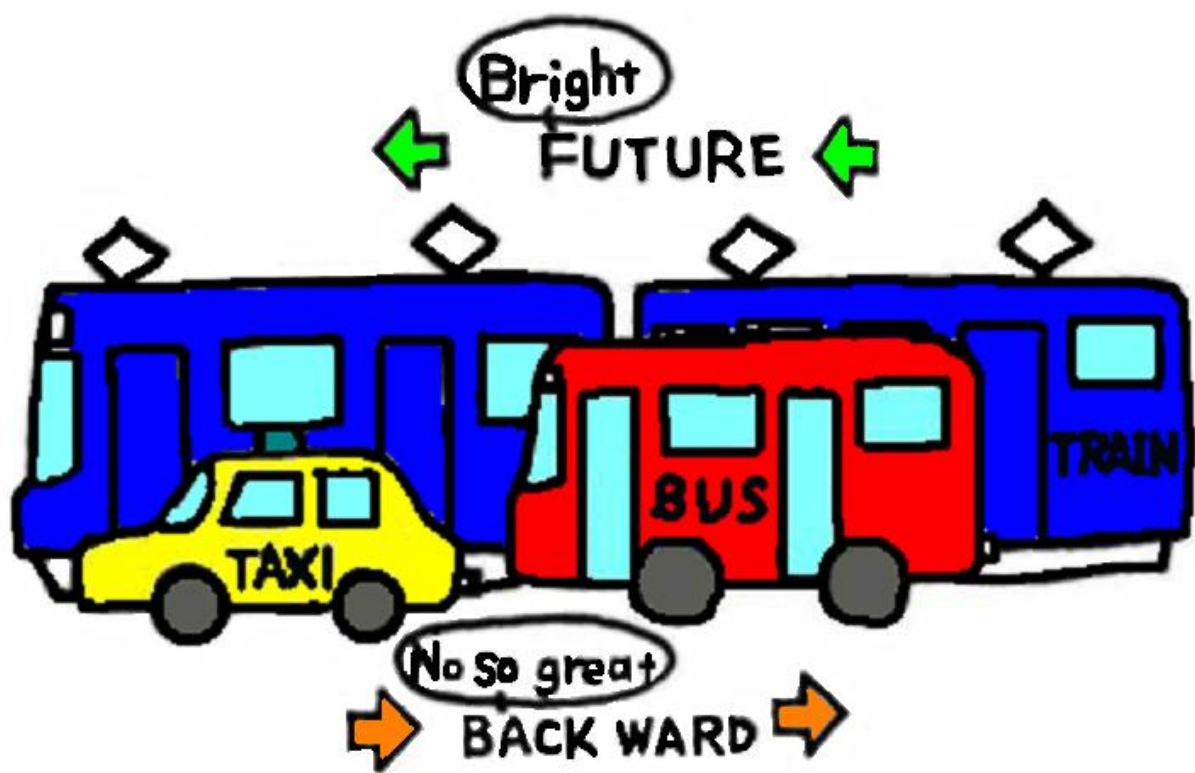


県央地域公共交通利活用促進協議会
協議会活動のまとめ



平成23年5月

はじめに



■栃木県の交通の現状

栃木県はマイカー利用者が多く、自家用乗用車分担率は全国で9位となっています。その割合は91.3パーセント（国土交通省「平成15年度旅客地域流動調査」）と非常に高く、この数字からは同時に、公共交通の利用者が極めて少ないこともわかります。また、栃木県の交通機関別輸送量を見てみると、JRを除くほとんどの公共交通の利用者が年々減っています。そして、このままでは、公共交通機関の路線や本数も減っていくことが心配されます。

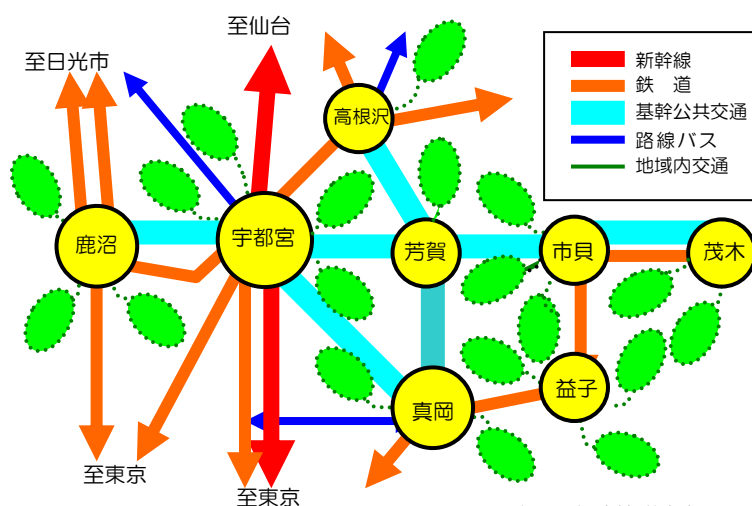
■県央地域公共交通利活用促進協議会とは

県央地域公共交通利活用促進協議会（以下、協議会）は、宇都宮市、鹿沼市、真岡市、茂木町、市貝町、芳賀町、高根沢町の連携・協力のもと、公共交通の利活用を促進することを目的として設立した協議会です。

この協議会の特長は、地域住民・交通事業者・行政の三者がそれぞれの視点から意見を出し合い、協力して今後の方策を考えている点です。

■目指すべき将来の公共交通網の実現に向けて

協議会が目指す将来の公共交通網



都市間には輸送力のある「基幹交通」があり、そこから各地域内を「路線バス」や「地域内交通」が枝葉のようにカバーする。それぞれの公共交通の乗り換えがわかりやすく、簡単であることも大切なポイントと考えています。

《平成17年度協議会資料》

公共交通の利用者が減少している中、このような公共交通網を実現していくためには、まず、現在ある公共交通をより多くの方に利用していただく必要があります。協議会では、そのお手伝いができるよう、公共交通の利用促進につながる活動を進めています。



平成17年度の活動について



フィールドワーク／公共交通マップ

7市町でフィールドワークを実施，各委員が実際に鉄道やバス，レンタサイクル等を利用して各地域の観光拠点等を回りました。

県央地域の公共交通の課題を再確認するとともに，実施結果をもとに，県央地域の観光拠点を公共交通で行くための「公共交通おでかけマップ」を作成，配布しました。



《公共交通おでかけマップ》

「モビリティ・マネジメント」フォーラム

東京工業大学大学院准教授（当時）の藤井聡さんを講師に迎え，クルマと公共交通の適切な使い分けを促す交通施策「モビリティ・マネジメント」について講演をいただきました。

また，宇都宮大学准教授の森本章倫さん，フリーアナウンサーの臼井佳子さん，栃木県バス協会専務理事の太田満さんを迎え，「クルマ社会からの転換」をテーマにパネル・ディスカッションを行いました。



《基調講演》



平成18年度の活動について



地域別ワークショップ

鹿沼市，真岡市，茂木町，市貝町，芳賀町，高根沢町で地域別にワークショップを行いました。

地域住民の方にも参加をいただき，公共交通機関等を視察し，現在の公共交通の問題点について意見交換をしました。

地域フォーラム

- ◇芳賀町フォーラム 平成18年11月10日
- ◇鹿沼市フォーラム 平成18年12月19日

宇都宮大学准教授の森本章倫さんに「まちづくりと公共交通」について講演をいただき，芳賀町では町長も参加してのパネルディスカッションを，鹿沼市では市長と事業者がそれぞれの取組を説明しました。

いずれのフォーラムでも会場も一体になった活発な意見交換が行われました。



《左から森本さん・市長・交通事業者》

モビリティ・マネジメント

平成18年10月から，宇都宮市の国道123号線でモビリティ・マネジメントを実施しました。

自治会を通じたアンケート調査の後，自宅から最寄りのバス停の統合時刻表（3社のバス時刻表を1つに統合）などを郵送。事後アンケートの結果，18パーセントの方のバスの利用回数が増え，11パーセントの方のクルマの利用回数が減りました。

バス乗車予定時刻表 2007年10月1日 確定

路線	平日	土曜	日曜	休日	学芸部前
6	21	30	40	41	55
7	05	15	25	30	45
8	05	15	25	35	50
9	05	15	25	35	50
10	05	15	25	35	50
11	05	15	25	35	50
12	05	15	25	35	50
13	05	15	25	35	50
14	05	15	25	35	50
15	12	13	22	31	37
16	02	07	17	22	23
17	02	07	17	22	27
18	13	20	30	47	58
19	02	11	12	18	20
20	13	18	48		
21	18	25	35		
22	13				

※時刻表はバス停ごとに異なります。時刻表はバス停ごとに異なります。時刻表はバス停ごとに異なります。

《統合時刻表》



平成 19 年度の活動について



6月1日 第1回協議会

平成19年度の事業計画について協議し、各地域の実情に合わせたモデル施策の実施や、地域フォーラムを開催することを決定しました。また、それぞれの施策ごとに、関係委員によるワーキンググループを設置し、実施に向けたより具体的な検討を行っていくことになりました。

《協議会での議論》



8月18日 芳賀町モデル施策(イベントに合わせた臨時バスの運行)

芳賀町の現状

路線バスが年々減少し、交通渋滞が激しい花火大会に公共交通の利用を呼びかけようとしても、宇都宮駅に帰るバスがないといった現状があります。

モデル施策の内容

花火大会終了後に、JRバス関東が臨時バスを運行、バスによる来場を呼びかけ、公共交通の利用機会を提供しました。

《夜間の臨時バス》



10月13/14日 鹿沼市モデル施策(市営バス無料デーのPR)

鹿沼市の現状

路線バスの廃止等に伴い市営バス（リーバス）を運行していますが、その利用促進が課題となっています。

モデル施策の内容

鹿沼市がリーバスの利用機会を増やそうと実施した、秋祭り時の「リーバス無料デー」について、ポケットティッシュを作成、広くPRを行いました。

また、鉄道利用者の利用環境向上のため、東武新鹿沼駅周辺にリーバス案内板を設置しました。



《リーバスPRポケットティッシュ》

1月スタート 真岡鐵道沿線地域モデル施策(真岡鐵道の利用促進)

真岡鐵道の現状

真岡鐵道は、芳賀郡の沿線住民の貴重な足として運行してきましたが、マイカーの普及や少子化により利用者が減少しています。

モデル施策の内容

東野バスの七井駅（益子町）での真岡鐵道との接続強化、真岡温泉と連携した割引キップ発売などをPRするチラシを作成、時刻表とともに配布しました。また、鉄道利用者の利用環境向上のため、七井駅周辺に東野バスのバス停までの案内板を設置しました。



《真岡鐵道PRチラシ》

モビリティ・マネジメント(MM)施策の継続調査

実施概要

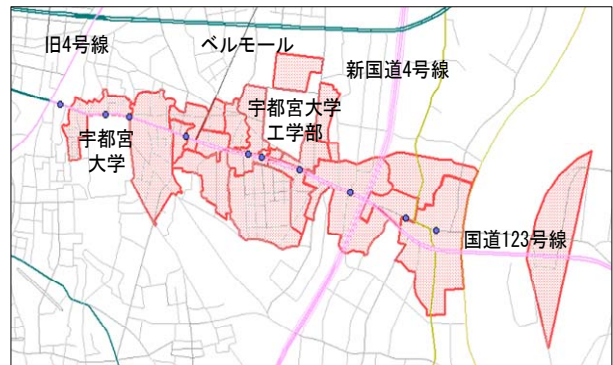
平成18年度に、国道123号線沿線地域で実施した「モビリティ・マネジメント」(以下、MM)の実施効果の継続性や、「統合時刻表」の住民ニーズを把握するため、平成18年度のアンケート協力者に対し、継続アンケート調査を実施した。

また、実施にあたり、平成18年度の実施結果を対象地域に広く報告をするため、ニュースレターを作成し、全世帯に配布した。

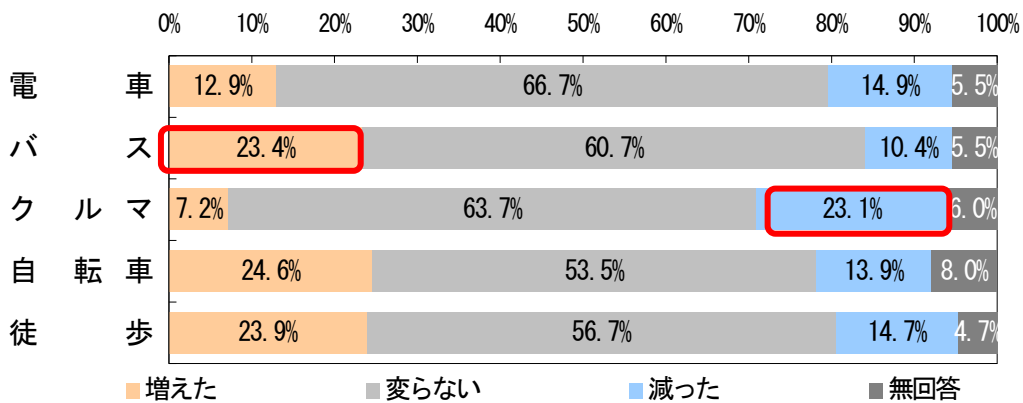
ニュースレター



調査対象地域



□「去年と比べて交通手段の利用状況に変化はありましたか？」への回答



⇒MM実施の1年経過後においても「クルマ利用が減少(23.1%)」し、「バス利用が増加(23.4%)」していることがわかる。

調査結果のまとめ

- MM実施1年後も、公共交通に対する意識の向上は維持されており、また、交通行動についてもクルマから公共交通などへの利用転換が進んでいる。
- MMは、公共交通の利用促進に向けて効果的な施策であり、また、取組を継続していくことにより、その効果も持続させることができる。
- 国道123号線沿線地域では、引き続き情報提供等の取組を実施していくとともに、MMが実施可能な地域に拡大していくことが望ましい。

高根沢町フォーラム開催

- ・名 称 「まちづくりと公共交通」
～高根沢町と公共交通の未来を一緒に考えてみませんか？～
- ・日 時 平成20年2月13日（水）
- ・場 所 高根沢町元気あっぴむら
- ・参加者 60名

基調講演では、宇都宮大学准教授の森本章倫さんから「公共交通はなぜ必要か」「公共交通を再生するにはどうしたらいいか」「公共交通再生における行政の役割について」話があり、最後に、もっと住民のみなさんに公共交通に乗ることをこころがけてほしいとのお話がありました。

パネルディスカッションでは、高根沢町長、高根沢老人クラブ連絡協議会会長、TMO高根沢副委員長協議会委員の方と会場に来られた方も交えて意見交換を行いました。その中で、「高根沢町に望ましいのはデマンド方式なのではないか」「地域内交通を作るのであれば、周辺市町との連携、協力が必要である」という意見がでました。



《基調講演を聞く住民》

3月17日 第2回協議会

第2回協議会では、モデル施策の実施結果について、宇都宮市で実施されたMMの継続調査の結果報告、高根沢町フォーラムの開催報告を行いました。

また、平成17年から19年度までの取組を踏まえ、平成20年度は、新たな利用促進策について検討することや、これまでのフォーラム等の意識啓発活動を継続して実施していくことを決定いたしました。



《協議会意見交換の様子》



平成20年度の活動について



6月2日 第1回協議会

平成20年度の事業計画について協議し、モデル施策の実施や地域フォーラムを開催することを決定しました。新規モデル施策は、真岡市コミュニティバス運行調査の実施、市貝町「芝ざくら祭り」時の渋滞緩和策の検討の2つを計上しました。

また、JR宇都宮駅及び東武宇都宮駅の視察を行い、通勤者、観光客及び車椅子利用者の3つの視点から、課題や改善策について、意見交換を行いました。



《駅視察の様子》

8月9日 芳賀町モデル施策(イベントに合わせた臨時バスの運行)

芳賀町の現状

路線バスが年々減少し、交通渋滞が激しい花火大会に公共交通の利用を呼びかけようとしても、宇都宮駅に帰るバスがないといった現状があります。

モデル施策の内容

昨年に引き続き、花火大会終了後に、JRバス関東による臨時バスを運行するとともに、これをPRするチラシを作成、配布し、公共交通による来場を呼びかけました。



《臨時バスPRチラシ》

モデル施策の成果

37人が利用(昨年比14名増)し、利用促進の効果が見られました。

10月1日 第2回協議会

モデル施策の実施結果及び今後の実施概要について、各市町から報告を行いました。

また、第1回協議会で行った駅視察を踏まえ、JR宇都宮駅の公共交通の案内充実及び西口ロータリーの適正な利用並びにバスの分かりやすい行先案内について、ワーキンググループで具体的な検討を進めていくこととしました。

また、市貝町「芝ざくら祭り」時渋滞緩和策についても、ワーキンググループで具体的な検討を進めていくこととしました。

10月1日～12月19日 真岡市モデル施策(コミュニティバス運行調査)

真岡市の現状

真岡市では、路線バスの廃止による交通空白地域の公共交通確保が課題となっています。

モデル施策の内容

公共交通の利用実態を調査し、今後の市域における公共交通を検討するために、コミュニティバスによる公共交通運行調査(アンケート)を実施しました。

モデル施策の成果

利用者の90パーセント以上が新たな公共交通に対する利用意向を示しました。

今後、事業について、引き続き検討を進めていくこととしました。

10月11/12日 鹿沼市モデル施策(市営バス無料デーのPR)

鹿沼市の現状

路線バスの廃止等に伴い市営バス(リーバス)を運行していますが、その利用促進が課題となっています。

モデル施策の内容

昨年度に引き続き、鹿沼市がリーバスの利用促進策として実施した、秋祭り時の「リーバス無料デー」をPRするポケットティッシュを作成しました。

モデル施策の成果

利用者数は、昨年同時期から13パーセント増加しており、バス周知について、一定の成果が得られました。

《リーバスPRポケットティッシュ》



3月26日 第3回協議会

モデル施策の実施結果について、各市町から報告を行いました。

また、ワーキンググループの実施結果を踏まえ、意見交換を行いました。

市貝町「芝ざくら祭り」時渋滞緩和策検討ワーキンググループでは、来年度、実際に渋滞状況を視察することになりました。

JR宇都宮駅利用環境整備検討ワーキンググループでは、(1)改札口付近及び風除室の床面案内表示の充実、(2)観光案内所での交通事業者によるバス案内の試験実施、(3)バス会社3社共通系統番号の導入、(4)西口ロータリーのバス・タクシー・一般車が錯綜する現状の改善などについて、検討を行いました。

また、平成21年度は、平成17年から平成20年度までの取組を踏まえ、新たな利用促進策について検討することや、地域フォーラム等意識啓発活動を継続して実施していくことを決定しました。



平成21年度の活動について



5月29日 第1回協議会

平成21年度の事業計画について協議し、モデル施策の実施や地域フォーラムの開催について、決定しました。

モデル施策は、昨年度からの継続として、芳賀町イベントに合わせた臨時バスの運行、市貝町「芝ざくら祭り」時の渋滞緩和策の検討の2つを計上し、地域フォーラムは、真岡市で開催することとしました。

また、JR宇都宮駅の利用環境整備や3社共通系統番号について、引き続き、ワーキンググループで検討を進めていくこととしました。



《JR宇都宮駅構内の様子》

8月15日 芳賀町モデル施策(イベントに合わせた臨時バスの運行)

モデル施策の内容

昨年に引き続き、JRバス関東による臨時バスを運行するとともに、これをPRするチラシを作成、配布し、公共交通による来場を呼びかけました。

モデル施策の成果

約90人(昨年比53名増)が利用しました。毎年、利便性を考慮したダイヤ編成を行い、PRしてきたことから、利用促進の効果が着実に上がっています。今後は、芳賀町において、独自事業として、継続を検討していきます。



《臨時バスPRチラシ》

12月18日 第2回協議会

ワーキンググループの検討状況を報告しました。JR宇都宮駅利用環境整備検討WGでは、次のような成果が挙げられました。

① 観光案内所の案内看板表記の拡大

宇都宮観光コンベンション協会により、観光案内所をより分かりやすくするため、宇都宮市のおもてなしの色に合わせ、看板表記を拡大しました。

② バス有人案内の試験実施

関東自動車により、7月の1か月間、

観光案内所内に従業員を派遣し、バスに関する案内を試験実施しました。利用者は延べ1535人で、若年層(おおむね30代以下)の利用が44パーセントと多いことが分かりました。今後については、観光案内所職員によるバス案内も熟達していることから、駅2階でのバス案内は観光案内所に任せ、時刻改正の迅速な提供などの連携策をより強化していくこととしました。(バス事業者によるバスターミナルでのバス案内については、今後も継続していきます。)



《JR宇都宮駅観光案内所》

また、市貝町「芝ざくら祭り」時渋滞緩和策検討WGでは、来年度芝ざくら祭り時にシャトルバスを試験運行する方向で議論が進んでいる状況を報告し、承認を得ました。

3月17日 真岡市地域フォーラム

- ・名称 公共交通と「安心」のまちづくり
～市民目線で考える新しい公共交通～
- ・日時 平成22年3月17日(水)
- ・場所 真岡市 真岡市民会館 小ホール
- ・内容 基調講演「地域公共交通の行方」
講師 宇都宮大学工学部教授 永井 護 氏
- ・参加者 144名

宇都宮大学工学部教授の永井護さんによる基調講演を行い、「持続可能な地域交通の実現には、地域住民＝利用者、交通事業者、行政の連携が必要であること」「真岡市の地域特性と課題」「真岡市で取り組んでいる地域公共交通活性化協議会の運営と進め方」などについてお話しいただきました。



《フォーラムPRチラシ》

3月26日 第3回協議会

モデル施策や地域フォーラム、ワーキンググループの実施結果について、報告を行いました。

市貝町「芝ざくら祭り」時渋滞緩和策検討WGでは、芝ざくら祭り時の渋滞緩和策を検討してきましたが、協議会において、平成22年4月24日(土)に真岡鉄道市塙駅～市貝町役場～芝ざくら公園を結ぶシャトルバスを試験運行(事前予約制)することとしました。



《JR宇都宮駅改札口付近床面表示》

じたことから、今後は、宇都宮市が「宇都宮交通戦略」に基づき、関係者と連携を図りながら進めていくこととしました。

平成21年度は、引き続き、新たな利用促進策や地域フォーラムに取り組むほか、県央地域の市町・交通事業者の公共交通に関する取組状況の情報発信に取り組むこととしました。



《臨時シャトルバス運行PRチラシ》

JR宇都宮駅利用環境整備検討WGでは、JR宇都宮駅改札口付近の床面案内表示の刷新について、報告しました。(実施日は平成22年3月31日)

なお、3社共通系統番号については、議論を進めていく中で、JR宇都宮駅における情報提供の全体的なあり方について、更に検討する必要が生



4月24日 芝ざくら祭り時シャトルバス試験運行

バス3台、4便運行し、計87人の利用がありました。(当日推定来場者数8,900人)
使用した道路は狭隘な生活道路のため、通行が公知になると、新たな渋滞の発生につながり、付近住民の交通の妨げになってしまうことから、新たな渋滞緩和策を検討することとなりました。

6月3日 第1回協議会

平成22年度の事業計画について協議し、駅の視察、利用環境整備の検討、公共交通おでかけマップの作成について、決定しました。

11月18日～11月30日 駅視察の実施

地域住民、交通事業者、行政が、鉄道・バス等の連携策について、実際に駅を視察し、意見交換することにより、問題点や課題の共通認識を図ることを目的として実施しました。

《宝積寺駅西口》



＜高根沢町の視察結果＞

高根沢町グループは、宝積寺駅を視察しました。
宝積寺駅では、駅全体がデザイン性を重視していて必要以上の張り紙等をしないことになっており、情報量について、意見が分かれました。

《東野交通「真岡駅前」停留所》



＜真岡市の視察結果＞

真岡市グループは、真岡鉄道真岡駅を視察しました。
真岡駅では、構内の売店で、市内及び鉄道沿線の観光情報、バス案内も含めて案内していました。観光目的で真岡駅で降りる人は、レンタサイクルを利用している人が多いようです。

《「橋場」停留所》



＜芳賀町の視察結果＞

芳賀町グループは、路線バスや隣接市町とのデマンド交通との乗り継ぎ場所を視察しましたが、市町境での待合所の場所の確保は困難なことが分かりました。

「橋場」停留所のように、路線バスの他の停留所も、乗降者数の多い所は、屋根付き乗り場があるとよいという意見がありました。

11月18日～11月30日 駅視察の実施

＜市貝町の視察結果＞

市貝町グループは、公共交通（真岡鐵道市埴駅、笹原田駅、町営バス）、観光地（芝ざくら公園、大畑武者絵資料館）を視察しました。

芝ざくら公園、大畑武者絵資料館とも、マイカー以外に交通手段がない状況ですが、交流人口を増やすためには、駅と観光施設のつなぎ方を検討する必要があるという意見がありました。

＜市埴駅＞



＜茂木駅＞



＜茂木町の視察結果＞

茂木町グループは、真岡鐵道真岡駅を視察しました。

地元で普段不便を感じない駅について、初めて駅を利用する立場に立つと、目的地の場所や公共交通での移動方法等が分からず、不安であることが確認できたので、改善を検討したいという意見がありました。

＜鹿沼市の視察結果＞

鹿沼市グループは、東武鐵道新鹿沼駅を視察しました。

ホーム内のエレベーターの完成により、バリアフリー化が進んだが、観光案内、バス案内が不十分で、駅を起点に公共交通を利用しやすくする工夫が必要であるという意見や、自転車と電車の乗り継ぎという観点から、レンタサイクルのようなものを整備してもよいのではという意見がありました。

＜新設置のエレベーター＞



＜新鹿沼駅＞



公共交通おでかけマップの更新

県央地域における公共交通について、利便性向上策や不便地域の解消策をまとめ、相互の連携状況を示すことで、より利用促進を図ることを目的として、作成しました。

各市町の窓口や観光案内所で配布するほか、各市町のホームページでも掲載しています。

＜おでかけマップ（連携図）＞



<お問い合わせ先>

宇都宮市交通政策課	028-632-2134
鹿沼市企画課	0289-63-2146
真岡市企画課	0285-83-8102
茂木町企画課	0285-63-5619
市貝町総務企画課	0285-68-1110
芳賀町企画課	028-677-6012
高根沢町地域安全課	028-675-8110